

会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成 27 年度第 5 回小金井市廃棄物減量等推進審議会		
事務局 (担当課)	小金井市ごみ対策課		
開催日時	平成 28 年 1 月 26 日 (火) 午後 6 時から午後 8 時まで		
開催場所	小金井市役所第二庁舎 8 階 801 会議室		
出席者	委員	<出席者：11 名> 渡辺会長・大江副会長・岡山委員・清水委員・加藤委員・多田岳人委員・多田典子委員・北澤委員・勝又委員・鶴田委員・豊田委員 <欠席者：2 名>	
	事務局	西岡市長、中谷環境部長、小野ごみ対策課長・藤田ごみ処理施設担当課長・石阪中間処理場担当課長・富田・穂山・佐藤・玉井	
傍聴者の可否	可	傍聴者数	0
会議次第	1 開 会 2 報 告 平成 2 7 年度 可燃ごみ処理の支援状況について 3 議 題 平成 2 8 年度一般廃棄物処理計画の策定について (審議) 4 その他		
会議結果	別紙審議経過のとおり		
提出資料	別添のとおり		
その他	次回開催予定 平成 28 年 2 月 23 日 (火) 中間処理場事務所棟 研修室 I		

審議過程（主な発言等）

<p>渡辺会長</p>	<p>これより平成27年度第5回小金井市廃棄物減量等推進審議会を開催する。 波多野委員から欠席の連絡が入っている。 本日は、西岡市長が出席されているので、ご挨拶を頂きたい。</p>
<p>西岡市長</p>	<p>皆様には、小金井市の最重要課題であるごみの減量について、様々なご議論によりご貢献・ご尽力頂いていることに感謝申し上げます。 小金井市の可燃ごみは、平成19年3月末を以って二枚橋焼却場の全焼却炉の運転を停止して以降、多摩地域の多くの団体のご厚意により現在も処理して頂いている。多摩地域の方々には小金井市として感謝している。これまで培ってきた小金井市と多摩地域の各自治体の方々との信頼関係の継承に私自身も全力で努めさせて頂いているところである。そして、市政の最重要課題である新可燃ごみ処理施設の整備については、昨年7月に浅川清流環境組合が設立され、日野市、国分寺市、小金井市の3市による共同処理の実現に向けて準備が進められている。安定的で円滑に浅川清流環境組合の新焼却施設が稼働するまでの間、引き続き多摩地域の方々のご支援を頂いていかなければならない。ご支援を頂けるように小金井市としても、全庁挙げて全力で取組ませて頂きたいと思っているし、引き続きごみの減量は今後も取組んでいかなければならない課題であると認識している。また、ごみの発生量については、市民の皆さんのご尽力により年々減少してきている。皆さんの不断の努力に敬意を払うとともにこの場をお借りして感謝申し上げます。当審議会の皆様におかれては、平成28年度一般廃棄物基本計画の審議について専門的な知識や市民感覚を活かして、積極的な議論を頂いていると報告を受けている。今後も小金井市のごみ行政に建設的なご意見を賜ることをお願いしたい。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>本日は、この後、市長と環境部長は所用があるので退席させて頂く。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>では、事務局から配布資料の確認をお願いしたい。</p>
<p>富田減量推進係長</p>	<p>(配布資料確認)</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>前回の審議会の会議録の確認だが、修正等はあるか。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>2ページの方の私の発言で、「戸建て住宅の可燃ごみは66.1%」とあるが、可燃ごみの厨芥類と言うことだ。また、11ページの上、「今度の計画は啓発を重視することになると思うが、月1回のキャンペーンが年1回」という部分だが、年15回に直して頂きたい。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>では、修正して公開手続きに入る。次に事務局に報告をお願いしたい。</p>
<p>富田減量推進係長</p>	<p>先ず平成27年度可燃ごみ処理の支援状況についてごみ処理施設担当課長から報告する。</p>

審議過程（主な発言等）

藤田ごみ処理施設担当 課長	(資料説明)
富田減量推進係長	(その他の資料説明)
加藤委員	(資料「温風式生ごみ乾燥機 生ごみ乾燥テスト結果」の説明)
加藤委員	清掃事業の概要は、正式にはいつ頃になるのか。また、ホームページで公開されるのか。
富田減量推進係長	最終校正後完了後、準備が整い次第、公開の予定である。
小野ごみ対策課長	(平成28年度一般廃棄物処理計画の修正案について説明)
渡辺会長	今の説明に関して質問等はあるか。
加藤委員	14ページの「ごみを出さないライフスタイルの推進」、「イベントへの出展」、「年1回」とあるが、15ページの「分別の徹底」のところにも同じことが書いてあるが、両方に掛かっているということか。
小野ごみ対策課長	そうだ。それぞれ1回ずつと言うことではなくて、全体で1回と言うことだ。
清水委員	15ページの「未活用資源（可燃ごみに含まれる資源化可能物）の有効理法方策の調査・研究」のところだが、具体的に何か分かっているものがあるのか、それとも分からないからこれから調べようと言うことなのか。
小野ごみ対策課長	未活用資源は色々あると思うが、今までこの審議会の中で話させて頂いたのは、紙おむつと生ごみ関係だ。可燃ごみに含まれる資源化可能物と言うことで記載させて頂いている。
清水委員	おむつは可能性があるのか。
小野ごみ対策課長	紙おむつは、現在の状況では実現は難しいが、調査研究すると言うことでこの記載になっている。
加藤委員	前回の審議会の中で、「生ごみの効率的な収集・処理」、「有効利用に向けた調査・研究」と言うことで、小委員会を設けてはどうかという意見が出たが、検討をしたのか。
富田減量推進係長	前回までの審議で、小委員会を立ち上げるまでを今回の計画の中に明記して盛り込むかどうかの議論の中で、施策として調査・研究という位置付けと記載して、次年度以降、小委員会の立ち上げや、研究成果を実績として扱うほうが施策と実績との対比において明確化しやすいのではないかと

審議過程（主な発言等）

渡辺会長	<p>と言うご意見を頂いていた。</p> <p>もっと明確に計画に入れるべきだと言うのであれば、表現方法を変えるのもありだと思う。この修正案は前回の審議内容を反映させた形になっていると思うのだが、ご意見があれば挙げて頂きたい。次回の審議会で結審と言う形にもっていきたいので、活発な議論をお願いしたい。</p>
加藤委員	<p>このところ減量がストップしている。特に可燃ごみについては、小金井市の問題だけではなく広域支援先も含め、或いは今後3市共同処理も含めて非常に重要な課題である。生ごみの問題は避けては通れない。行政としても検討するだろうが、小委員会を立ち上げて検討することで市民レベルも含めてより明確になると思う。</p>
渡辺会長	<p>具体的にどういう名前でどういう形でやるか、全く決まっていない状況だ。どう記載できるかというところだ。</p>
岡山委員	<p>18ページ（3）廃棄物処理を支える体制の確立のところの、「1災害発生時の対応に向けた体制整備」の施策の「災害廃棄物処理マニュアルの策定」だが、小金井市の災害廃棄物処理計画自体はあるのか。無いのであれば、計画の前にマニュアルだけを作るということか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>計画としては、基本計画に災害時のことが記入されているので、それを以って計画的位置づけをしている。具体的な部分については、東京都からマニュアルを作るように指示されているので、それに基づいてマニュアル化していく。計画としては、基本計画や実施計画のタイトルのとおりだ。具体的な災害廃棄物等の想定は地域安全課が行っている防災計画に記載されているので、それも関連付けしていきながら廃棄物をどうするかをマニュアルの中で策定していきたい。</p>
岡山委員	<p>今、国が大規模災害廃棄物処理に関してガイドラインを定めているところだ。本年度、災害廃棄物処理計画をモデル作成する事業が環境省の関東事務所に入っている。この近くでは、八王子市がその事業を受けてモデル計画を作成中である。東京都からの要請と重なると思うが、地域総合防災計画があり、それとは別に災害廃棄物処理計画があって、その計画に基づいてマニュアルを作るとというのが、本来の流れだと思う。ガイドラインが遅れているため、計画作りも遅れているので、マニュアルも作れないというのが現状である。地域防災計画は別の部署で作成しているが、その中の災害廃棄物はとても薄いので、それに基づいたマニュアルで大丈夫なのか不安だ。</p>
小野ごみ対策課長	<p>恐らく、計画やマニュアル作りが進んでいる市は多くはないだろう。ただ、なぜ実施計画に案として出させて頂いたかと言うと、計画と言う文言を入れるかどうか検討だが、姿勢を示した上で、計画・マニュアル等の作成について検討していかなければならない立場にあることは間違いない。</p>

審議過程（主な発言等）

	<p>そういう意味で掲載させて頂けたらと思う。</p>
岡山委員	<p>これから検討するという施策か。</p>
渡辺会長	<p>マニュアルだけではなく、計画というのここに入れておくと良いかも知れない。</p>
岡山委員	<p>ガイドラインが出てこないのが非常に作りにくい。今のような積もりで準備をしようと言うのであるならば、計画作りの準備として入れておいたほうが良いかも知れない。</p>
渡辺会長	<p>これだとマニュアルを作ると言う感じだ。</p>
富田減量推進係長	<p>今のご意見に関してだが、施策は「災害廃棄物処理計画及びマニュアルの策定」、実施目標を「検討」にすると明確になるのではないかと思う。</p>
大江副会長	<p>15ページの計画項目の4の(6)未活用資源の有効活用方策の調査・研究の部分だが、16ページ6段目に記載されている施策の文言と同じなのはどうか。そこで、「研究の立ち上げ」とかなんらかのことを施策に付け加えるのは如何か。</p>
渡辺会長	<p>何らかの形で入れるのは良いかも知れないが、どういう形でやっていくのかははっきりしない段階でどのように入れることが出来るのか。</p>
岡山委員	<p>今回、調査・研究項目が沢山入っている。例えば、14ページの食品ロスの研究、16ページの生ごみの研究と可燃ごみの中の資源化物の研究、計画項目と施策が同じ文言の効果的な啓発活動の調査・研究などが挙げられる。どれも重要項目として扱われているし、全て「随時」になっているが、気持ちとしては本年度着手して、小委員会が立ち上がったことを平成28年度の実績として扱っていくというのが前回までのまとめだった。ここに小委員会の立ち上げを明確に書くか書かないか。</p>
大江副会長	<p>調査・研究・着手。着手となっていればやらざるを得ない。何らかの形でスタートするということだ。</p>
岡山委員	<p>「随時」ではなく、「着手」「開始」がよいのでは。</p>
小野ごみ対策課長	<p>「着手」という形になると、生ごみのところで言うと、生ごみの効率的な収集・処理の着手と言うことになるので、文言については整理させて頂きたい。研究機関の立ち上げの着手と言うことであれば大丈夫だ。</p>
渡辺会長	<p>表現の問題で、誤解を生じないようにということだ。</p>
大江副会長	<p>次回までに出して頂きたい。</p>

審議過程（主な発言等）

<p>渡辺会長</p>	<p>何か調査・研究する組織を立ち上げるということだが、生ごみの効率的な収集・処理に限った委員会にするのか、食品ロス削減やおむつも含めて検討する委員会にするのか。焦点が絞られているほうが、具体的になるということがあるかも知れない。食品ロス削減も目的としては3Rで言うところのリデュースのほうが優先と言うことを考えるとあっても良いと思う。収集・処理だけではない生ごみに向けての取り組み、或いは有機性可燃物のような感じで捉えるのか。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>今日午前中にごみゼロ化推進委員会の役員会があった。地域に設置している大型生ごみ処理機の問題について、もっと別な方法を考えられないのかという意見が出た。大型生ごみ処理機について、今までは3件だったが今度の計画では1件になっている。2年連続ゼロなので、要綱を見直さなければゼロが続くと思う。紙おむつの問題は、直ぐには難しい部分がある。燃やすごみの増加が最大の課題だと4ページでも位置付けている。生ごみも含めて検討する必要がある。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>要綱の整備という表現になっている。これで良いのか、それとも見直しと入れたほうが良いのか。</p>
<p>勝又委員</p>	<p>15ページの「分別の徹底」のところの「清掃指導員による分別指導の徹底」について説明して頂きたい。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>基本計画には明記しているのだが、私も含めてごみ対策課の職員は全員清掃指導員だ。よって、相談して頂ければ実際の現場等で指導させて頂く。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>清掃指導員の役割は、市民から相談や連絡があったら出向くのが基本なのか。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>出向いてごみの中味を確認して指導させて頂く。市長から清掃指導員の任命を受け、職権でごみを開封することができる。</p>
<p>勝又委員</p>	<p>ごみ相談員と清掃指導員は同じ公務員なのか。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>ごみ相談員制度は平成23年度に立ち上げた。ごみゼロ化推進委員の方々にごみ相談員としても委嘱している。分別の相談を頂いた場合は、分別の手引きの内容に基いて説明するようにお願いしている。</p>
<p>大江副会長</p>	<p>17ページの「9事業活動における3Rの推進」の(4)の立入り指導するのは、清掃指導員なのか。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>そうだ。清掃指導員である市の職員だ。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>連絡があったからではなくて、市が独自に立入指導に入ることな</p>

審議過程（主な発言等）

<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>のか。武蔵野市では、プロジェクトチームがあって、事業者に対して積極的に指導している。どういう場合に指導が入るのか。</p> <p>市の事業用指定収集袋を使用している一部の事業者のごみも、市の収集委託業者が収集しており、そちらから、分別の違うものが入っている等の場合は、市に報告がある。それに基づいて実際に現場に入る。また、収集許可業者が集めている事業系ごみについては、数ヶ月に1回内容を検査する。本来、資源化できる物がごみに入っているなど、指導すべき場合は、収集許可業者とともに指導・助言をする。</p>
<p>大江副会長</p>	<p>武蔵野市の場合、エコパートナー表彰制度と併せてやっている。定期的に立入指導している。懲罰的なイメージを与えないで、表彰制度で大規模事業者約40に対して年に2回程度行っている。今後、そのように制度化していくことが必要になってくるかも知れない。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>ごみ相談員や清掃指導員というのは、書いてあるだけでは分かりにくいので、どこかに注釈があると良いかも知れない。</p> <p>他に問題点等があれば指摘して頂きたい。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>(修正案に対する意見（加藤委員作成）の説明)</p>
<p>岡山委員</p>	<p>先程の18ページのところだが、「災害廃棄物処理計画・マニュアルの策定」として、実施目標を「検討」とすると、上方の「3廃棄物関連施設の整備」の「中間処理場施設更新を含む廃棄物関連施設の将来の処理機能及び再配置の計画策定」は「新規」なので、先程のところも研究も「新規」でも良いのではないか。「新規」と書かれると次の年は「継続」になるのかと言う気がする。次の年が計画策定済みであれば、削除するのかもしれないし、継続して策定を検討するのであればこの表が「継続」或いは「随時」になる。ここだけ「新規」なのは違和感がある。</p>
<p>鶴田委員</p>	<p>私もこの「新規」と言う言葉が気になっている。目標に「新規」と言うのはピンと来ない。目標であれば、いつまでに実施するとかの表記が当然だと思う。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>表現の仕方を検討したい。例えば、「平成29年度までに策定」とか、事務局で検討したい。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>先程、小委員会とか部会とか立ち上げるという話が出たが、具体的にどの項目に入れるのかと言うのもあるので、14ページの「発生抑制を最優先とした3Rの推進」のところで強化項目に関しては、部会等を立ち上げて検討するというのをに入れてはどうか。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>前回の素案には「新規」ではなく、「随時」と書かれている。</p>

審議過程（主な発言等）

岡山委員	「新規」と言うのは、意味合いとしては恐らく「着手」に近いと思う。
北澤委員	「随時」と言う表現が曖昧すぎるので、本当に目標になるのか。年度内に検討を開始するとか、次年度にやるとか、もっと具体的な表現に出来ないのか。実施目標が曖昧だと評価も出来ないなので、それに対する対策も出て来ない。
加藤委員	「随時」としなくても済むものまで、「随時」にしている。具体的に書けるものは、具体的に書くべきだ。
鶴田委員	14ページの「1ごみを出さないライフスタイルの推進」に「市報での周知」、「年2回」とあり、「2リユースの推進」にも同じことが書いてある。16ページの「5啓発活動の強化」では、「市報の発行及び掲載内容の工夫」、「年4回」となっている。この違いは何か。
小野ごみ対策課長	ごみ減量リサイクル特集号は年4回しか出してない。ページ数も限られており、4ページしかないという状況の中で、毎回これらを盛り込んでいくと相当見辛くなってしまう。例えば「ごみを出さないライフスタイルの推進」については4回中2回という意味だ。
渡辺会長	他の項目は2度出てくる場合は、前回を含むという形だ。市報だけ別扱いすると分かりにくい。
加藤委員	「ごみを出さないライフスタイルの推進」の記事は年2回、「リユースの推進」についての記事は年2回という意味だ。4ページの中に入れ込むということだ。
渡辺会長	これを見ただけでは、分からない。市報でごみ特集が年4回なら全部年4回にしたほうが、分かり易いのではないか。
小野ごみ対策課長	平成27年度の実施計画を作っているときも同じような議論があったと思う。4回分の2回にするという表記を提案させて頂いたときもあるが、審議会の最終的な意見としてこの表記にすることになったと認識しているのでご理解頂きたい。
富田減量推進係長	補足だが、5ページ「2リユースの推進」の市報の掲載に関しては9月末時点で6回掲載の実績がある。特集号だけでなく、特に啓発として入れたい場合や告知内容がある場合には、通常記事でも掲載している。年4回に統一してしまうと、そういう所が見えにくくなるのではないかと思うが、ご意見を伺いたい。
渡辺会長	一つ一つ具体的に書くというのものもある。市報でリユースに関する周知・年何回、市報でごみを出さないライフスタイルに関する周知・年何回、と言うように一つ一つ具体的にに入れておけば、別々にカウントすることが分

審議過程（主な発言等）

岡山委員	<p>かる。</p> <p>あくまでも目標なので4回としてしまうと、必ず4回入れなくてはならなくなってしまう。だから、設定してしまうのはどうかと思う。</p>
渡辺会長	<p>4回と言うのは、市報でゴミ減量リサイクル特集号などをやるのが計4回なので、その中で、リユースに触れるのは何回でも良いという解釈だ。他の施策に関しては、大体そんな感じになっていると思う。「リユースの推進」のところの「学習機会への参加及び学習の場の提供」が年11回というのは、リユースだけで11回ではなく、学習機会への参加及び学習の場の提供が全部で11回で、毎回全てのトピックスを網羅したかどうかは不明だが、どの項目に現れてもリユースを取り上げたから1回と数えるのではなく、学習の機会の場合に参加したことで11回になっているわけなので、それと市報の数え方が違うとことになってしまうので、具体的に数えるのであれば、具体的な内容を入れないといけないと思う。</p>
	<p>(暫時休憩)</p>
渡辺会長	<p>では、再開する。審議の冒頭で次回の結審に向けて、今回で大方の議論を作っておきたい旨をお伝えしたように、今後の修正等の整理を行いたい。但し、時間内で提案し切れなかったご意見がある場合には、今回までの議論を踏まえながらなるべく具体的な修正案を文書にて事務局であるゴミ対策課に2月5日までに提出して頂きたい。提案内容については、事務局で取りまとめて会長・副会長の判断で修正案を結審に向けて調整していきたい。それでは、審議を続けたい。</p>
小野ごみ対策課長	<p>先程の「随時」の部分や回数表記の件だが、「随時」と言うのは、文章だけで読むと、やらなくても良いのではないかと取られがちだが、実際は毎年ほぼ全てを実施している。その辺を分かる文言を事務局のほうで考えさせて頂く。「随時」の説明で行うか、具体的なことをここに書いて目標とするのかも含めて持ち帰らせて頂きたい。回数表記についても同様だ。出来るだけ分かり易くお伝え出来るように検討したい。</p>
大江副会長	<p>5ページ施策のゴミ減量キャンペーンの部分だが、28年度ではクリーンアップキャンペーンに名前を変えている。16ページの「クリーンアップキャンペーン（駅頭）」、「年1回」と言うことで、年15回が年1回になる。以前は市長が駅頭に立つことも結構あった。1回になったという中味はどのようなことを想定しているのか。27年度と28年度の違いを教えてください。</p>
小野ごみ対策課長	<p>今までのゴミ減量キャンペーンの目的は3つある。一つは市民に対する啓発、もう一つは他市の市民に対する小金井市の取り組みを知っていただく、さらに一つは市の施策に取り組んで頂いた方々への感謝という3つの目的があるということ認識して取り組んできた。ただ、ゴミ減量キャンペー</p>

審議過程（主な発言等）

<p>大江副会長</p>	<p>ンを長く続けているので、形骸化しつつある状況の中で、市民等々に対して行う情報提供の仕方を変えていきたいという思いがある。ごみ減量キャンペーンの回数は減っているが、市民や他市の方々に伝えたいことは違う形でやっていきたい。具体的なことは検討中なので、ここに表記が出来ていない。</p> <p>15回から1回と言うのは、かなりの激減感がある。当市・他市・関係者への感謝と言うのは、とても良いことなので、新市長も率先して取組むということを示す機会であるし、市民にも緊張感が伝わると思う。非常事態宣言が形骸化しつつある中、転換期にあつて、この部分を見直してはどうか。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>キャンペーンのやり方を研究するのは良いが、形骸化しているからといって1回にするのは行き過ぎだ。駅でのキャンペーンの中でもごみ減量キャンペーンは、チラシ等を受け取る人の反応が良い。</p>
<p>多田典子委員</p>	<p>先ほど、ごみ・リサイクルカレンダー表紙絵の表彰式に出席したが、そこで登場した「くるくるカメくん」の着ぐるみをもっと活用してはどうか。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>目標が回数設定になっているので、後退したイメージを持たれるのかも知れないが、キャンペーンと銘打ったものは、年1回市民まつりを想定している。今まで行ってきた駅頭キャンペーンは、キャンペーンという冠を外して、駅や商店、スーパー等の前で小規模化してやりたい。新しい市長も私たちも取り組みを後退させる気持ちはない。表現の仕方については、検討して、会長・副会長と相談させて頂きたい。</p> <p>多田典子委員の言われた、くるくるカメくんは駅頭キャンペーンで、このところほぼ毎回登場している。引き続きキャラクターの活用を考えている。</p>
<p>北澤委員</p>	<p>キャンペーンのところは、ごみ減量キャンペーンの実施方法の検討とか、もう少し具体的にやり方などを入れておいたほうが分かり易いと思う。クリーンアップキャンペーンとごみ減量キャンペーンの繋がりがよく分からない。これだと掃除して終わってしまうようなイメージが無きにしも非ずだ。</p>
<p>大江副会長</p>	<p>以前、前市長が駅頭キャンペーンをやっているところに出くわした時に、たすきを掛けて頑張っているなという感じを受けたので、新市長も出て行くことは大事だ。市民にインパクトを与えたいと思う。是非、新市長も立って頂く機会があったほうが良い。</p>
<p>小野ごみ対策課長</p>	<p>市長からは、キャンペーン等に積極的に参加したいと言われている。ただ、市民に訴える手段として今までと同じことではなく、形を変えてやっていきたい。継続性を保ちつつ、実際により効果的な啓発活動にシフトし</p>

審議過程（主な発言等）

	<p>ていきたい。回数だけを見るとマイナスイメージがあるが、次回までに検討する。</p>
加藤委員	<p>以前、日野市がごみに関してワースト1だったので、汚名返上するために市長が連日駅に立って訴えてベスト1になったことがある。市会議員や市長が駅に立つと大きな効果があると思う。</p>
岡山委員	<p>提案だが、16ページの「5啓発活動の強化」の施策の「効果的な啓発活動の調査・検討」の部分だが、何故「調査・研究」ではないのか。ここが重要な課題なのではないか。クリーンアップキャンペーンのあり方やキャンペーンのやり方、くるくるカメくんの活用などを含めてここに集約されるのではないか。だから、一番上まで上げて良いのではないか。また、「市ホームページでの周知」だが、「随時」ではなく「常時」ではないのか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>更新が「随時」と言うことだ。</p>
加藤委員	<p>市のホームページが見難いので、もっと分かり易くして欲しい。</p>
小野ごみ対策課長	<p>1月21日からリニューアルしているので、以前よりは見易くなっているのではないかと思う。</p>
渡辺会長	<p>ウェブサイトの運営はどこかに委託してやっているのだろうが、担当者がどこまでごみの重要性を認識しているのかというウェブサイトが多い。どこの部局もトップに持っていきたがるだろうが、市がやっていることの中でごみはとても重要だと思うので、ウェブサイト上でそれなりの位置を占められると良いと思う。</p>
豊田委員	<p>5ページの「1ごみを出さないライフスタイルの推進」の「(4) 生ごみの水切り及び自家処理の推進」の部分だが、具体的な訴えかけとか、見通しとか新たな項目が加わっているのかいないのか。インターネットで見たのだが、「ベランダ de キューロ」を埼玉県ふじみ野市が導入しているようだ。土の中のバクテリアに分解させる。維持費がゼロ。夏は3～4日で完全になくなる。1回500グラム以内。冬だと10日掛かる。これだと効率が悪いし、生ごみはもっと出る。27キロぐらいの土に4箇所くらい穴を作れば効率が4倍になる。臭いも殆ど気にならない。CO₂も出ないらしい。やってみようかと思っているので、これに関して情報があれば教えて頂きたい。</p>
小野ごみ対策課長	<p>「キューロ」に限らず、菌に食べて貰うものは、小金井市民の中でも取組んでいる方がいるので、順次紹介させて貰いたいのだが、難しい取り組みが多くて、手をつけても失敗する可能性も残されている。市ホームページで周知させて頂きたいのだが、誰でもできるというものではないことか</p>

審議過程（主な発言等）

	<p>ら、前に進んでいない。私どもとしては、自家処理をやって頂くのが一番有り難いので、取り組みについては情報収集して皆さんに提供させて頂きたい。</p>
加藤委員	<p>自家処理と言う点では、庭に埋めるのが一番簡単で、市に負担を掛けない。もっと推奨すれば広がっていくと思う。</p>
渡辺会長	<p>「1 ごみを出さないライフスタイルの推進」のところの施策に「自家処理に関する情報収集・研究」を入れることを検討しても良いのではないか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>自家処理はきちんとしたやり方をしないと失敗することが多い。時間があってきちんとごみと向きあうことが出来る方がやって成功する例が非常に多い。ご指摘頂いたので情報収集と正しい情報提供を検討したい。</p>
岡山委員	<p>次年度としては、16ページに「生ごみの効率的な収集・処理、有効利用に向けた調査・研究」とあるので、ここの中で広く行っていけば良いかと思う。</p>
渡辺会長	<p>「ごみを出さないライフスタイル」に「自家処理の推進」と入っている。</p>
岡山委員	<p>関連項目的にあっても良いかも知れない。</p>
渡辺会長	<p>2回出しても良い</p>
岡山委員	<p>「食品ロス」が新しく入ったように、「生ごみの自家処理方法の調査・研究」とか入れても良いかも知れない。</p>
渡辺会長	<p>予定としては、次回は、事務局のほうで、今日の議論を元に再修正して頂いたものを確認するという形にしたい。他に何かご意見はあるか。文書で送って頂いても良い。 次回は2月23日火曜日15時中間処理場で開催する。 では、本日はこれで閉会とする。</p>

以上